

2022年度 個人研究実績・成果報告書

2023年4月12日

所属	政策情報学部	職名	教授	氏名	榎戸敬介
研究課題	都市中心部における公共空間と文化の融合				
研究キーワード	都市デザイン、公共空間、都市ブランディング、観光都市、中心業務地区、テナポリリー・アーバニズム、トランスナショナル・アーバニズム、デジタル・プレイスメイキング、ポストモダン・アーバニズム	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	11. 住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究の目的は、都市デザインの思想および技術として国内外で展開される、公共空間の再創造における文化の関わりの最新事例を収集、分析することである。主な研究成果は、海外の研究者による学術論文を幅広く収集し、現在の研究状況を把握したことである。現場での情報収集については国内でのフィールドワークを予定していたが、今年度も COVID19 の影響下で都市の公共空間の利用については限定的な観察にとどまった。収集した学術論文より、公共空間の再創造は北米および EU 諸国の都市計画・デザインにおいて改めて重要な研究課題となっており、多様なアプローチが試みられていることを確認した。特に、主要な研究テーマとして、再創造される公共空間の利用における社会的な不公平性の発生やジェントリフィケーションなど Social Justice あるいは Spatial Justice などに関する問題が研究者の関心を集めていることを把握した。また、公共空間と文化の関わりについては、テナポリリー・アーバニズムやタクティカル・アーバニズムと称される、短期的でボトムアップのアートやイベントなどの空間創造と利用に関する研究が近年の都市デザイン思想・技術として進められている状況を確認した。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>なし</p> <p>3. 主な経費</p> <p>文献購入</p>					

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

（本文は2ページ以内にまとめること）